

つぶれたけん先を復活させるスゴ技

けん先の軸の直径はおよそ 10 mm（実測値）なので、太軸用（φ11 mm）の鉛筆削りで削ると、簡単にけん先を補修することができます。また、鉛筆削りの刃の角度は鋭角用の 23 度程度のもので、鈍角用の 29 度程度のものが市販されています。けん先の角度はおよそ 30 度（実測値）なので、新品に近い状態に補修したいのなら鈍角用の鉛筆削りを使用するといいでしょう。

ただし、公式戦等を使用する場合は、注意が必要になるので、気に入っているけん玉や、練習用のけん玉で使用するのをお勧めします。また、けん先に瞬間接着剤を少し垂らして補強しておくといいでしょう。

【公式戦使用けん玉規定より抜粋・一部改】

- けん先の摩耗防止処置として、瞬間接着剤（無色のものに限る）などによる固着はけん先の最先端部にみに限り認める。
- けん先の最先端部が摩耗した場合の補修を行うことは認める。ただし、調整の限度は新品時の件様の形状を損なわない範囲であること。

